

# 中村設計新聞

## 第五号

七月十七日(金)曇り

今回はいつもの研修記事とは違い、日本三大祭りの一つ、祇園祭の記事にしてみました。

中村設計には、山鉾のある町内に生まれ、小さい頃から祇園祭に携わっている所員がいます。

今回は祇園祭にスポットを当て、山鉾巡行までの裏側や祇園祭を通じて感じることをレポートにしました。

### 祇園祭とはー



平安時代に疫病退散を願って御霊会として始まった祇園祭。七月一日から七月三十一日まで一ヶ月間に渡って神事が取り行われます。

中でも山鉾巡行は全国から多くの方が見物に訪れます。

### \*夏の訪れと祇園祭\*

七月十三日午前八時に各町内を出発し、円山公園にある町内の蔵まで、御神体(ごしんたい)、懸想品(けそうひん)の骨組みを取りに行きます。

山は、大工さんが釘を使わず、縄だけで組み立てます。御神体と懸想品は、町会所にて、十七日の巡行の日まで一般に公開されます。

また、各山鉾町では、それぞれの家で屏風なども、飾られます。

鉾の町内では十三日頃に、鉾の曳初め(ひきぞめ)が行われ、一般の人が鉾を曳くことができます。

十七日の巡行

の日は、午前六時から準備が始まり、山に前掛け、見送り、胴掛けが取り付けられます。午前八時には、裃に着替え、四条烏丸に集合します。午前九時になると長刀鉾に、御稚児(おちご)さんが乗り巡行スタートです。

御神体などが保管されている蔵です



四条堺町で、「くじ改め」を行い巡行の順番を確認した後、四条麩屋町では「しめ縄切り」が行われ、祇園囃子(ぎおんばやし)も賑やかに都大路を巡行します。四条河原町、河原町御池、御池新町では辻回しがあり、約十二トンの鉾が方向転換する姿は、圧巻です。

御池新町から長刀鉾の御稚児さんは八坂神社へと戻ります。

そして、四条河原町から、鉾のお囃子は、帰り囃子となります。

私たちは、山の後ろに2列で整列し、最後まで巡行のお供をします。

巡行が終わわり、午後からは、山の解体が始まります。組み立てるのに、一日かかっていた山も、解体は半日で終

わります。今まで伝わってきた懸想品などをこれからも使用していくために、一つ一つ丁寧に収納して、円山公園の蔵へと片付けに行きます。

レポート・堀江 耕世



蔵から出された御神体や懸想品等



屏風には紀貫之や在原業平の短歌が描かれています

きつと得する豆知識

### 祇園祭 クイズ

Q. 輪切りにした模様が八坂神社の紋に似ていることから、生粋の京都人が祇園祭の一ヶ月間口にしなない野菜は何でしょう?

きゅうり  
なす  
ゴーヤ

答えは次回の新聞で発表します。

### ゴーヤの成長記録3

それと朝顔も

ゴーヤのグリーンカーテンは、まだまだ成長しています。事務所の1階は緑でいっぱいです。そして、グリーンカーテンにアクセントをつけるためゴーヤと同時期に朝顔も育てています。アクセントとしては、少し弱いかもしれませんが、ゴーヤの葉の隙間から見える朝顔は、力強くより綺麗に見えます。

来年は朝顔がより良いアクセントになりグリーンカーテンと共に事務所の外壁を彩りたいと思います。

事務所にお越しの際は、是非ゴーヤや朝顔をご覧ください



七月七日(金) before



八月十一日(火) after

1 御神体とは、御霊(神霊)が宿る場所や物 2 懸想品とは、山を飾る装飾品